



月例山行

4月29日 県民の森

南尾根・西尾根縦走~国体コース 6人

柴橋 (L)、水野、伴野、中村、水谷、畑中

▲県民の森駐車場に集合 8:55 駐車場を出発。登り口から続く急登を経て尾根に上がると岩尾根が姿を現す。



細くて急な岩尾根を登り、9:50に南尾根展望台(398m)到着。記念撮影と小休止の後、西尾根への縦走を開始。歩きごたえのあるアップダウンを経て 10:45に国体コースへの分岐へ。ホソバシャクナゲやミツバツツジの花を愛でながら急な山道を下る。

▲11:15 下石林道の東屋に到着。昼食後、下石の滝へ立ち寄り 12:55 に終点モリトピアに帰着。

心配された雨にも降られず、新緑の美しさに癒された山行だった。

歩行距離約8km。 ——記録：柴橋



変である。この登山道の多くは山小屋の関係者が整備している。コロナ禍で収入減が続く中、経営者は悲鳴をあげている。

昨年5月の山行で宿泊した西穂山荘は、300人の定員に対して20日(金)は我がパーティの3人のみ。経営の厳しさは察しができる。

本紙 No.154 で紹介した登山道法研究会発刊の「これでいいのか登山道」も現状と新たな登山道法の制定を目指して運動をしている。



再度 インド・ヒマラヤへ 沖 允人さん

昨年6月、日本山岳会東海支部のインド・ヒマラヤ登山隊の総隊長として成功を収めた当会の沖さんが、この夏、6~7月にインド・ヒマラヤを計画しています。インド政府の登山許可次第では、1年後への変更もあるとのこと、成功を期待しています。



これでいいのか 登山道 !!

▲ 国内の山は通常入山料はない。ただし、近年環境保護や登山道の維持・管理などから富士山などでは、任意の協力金徴収が始まっている。鈴鹿の山から穂高の山々まで、山道の整備は大

Chukyo Alpine Club(CAC), Japan •
Indian Himalaya Expedition •
Indian Himalaya • Northern Ladakh •
Pangong Range •
Merk (6481m) and Unnamed Peak (6225m) •